

活動報告



2018 年から衛生環境の改善のため、住民向けの啓発活動やリーダーシップ研修を行ってきました。2019 年には、住民が作成したアクションプランの中から浸水地におけるトイレの問題に取り組みました。各家庭のトイレは海水に水没して使用できなくなっており、住民の多くは屋外で排泄する等、衛生面、安全面で最も優先度の高い問題となっています。浸水地でも使用できるトイレを導入するため、計画、設計、建設、運営・利用方法の策定までに住民が参加型で携わりました。

設置された新たな公衆トイレは、微生物を活用したバイオトイレの技術を用いて排水を処理し、雨水を利用することで真水の不足問題にも対応します。さらに将来の水位の上昇時にはトイレを簡単に取り外し、改築できる設計となっています。周辺住民30世帯が利用できるようになりました。このトイレは「適応型トイレ」と呼ばれ、プカロンガン市の優先プログラ

ムとして浸水地域に広く普及されることになりました。

9月には日本から大学生が浸水影響地を学ぶスタディーツアーを受け入れました。日本の学生達にとって気候変動や開発問題の実態を学ぶ機会になったと同時に、現地の住民にとっても外から見た感想や客観的な意見を聞くことで今一度自分たちの直面している問題を整理する良い機会となりました。また、日本の水害や防災の経験や知識等も共有でき、住民達の防災意識が高まりました。

2020年2月には、昨年引き続き豪雨による大水害が発生し、14000人が被災しました。そのうち7割は在宅避難となりましたが、多くの避難者に行政からの支援物資が届かず、食糧や薬が不足していました。FoE Japanは緊急支援を実施すると同時に、緊急時の弱者支援等の確認を進めて行きます。

2019年度活動

- 浸水地適応型トイレを住民参加型で設置
- 衛生環境改善のためのリーダー研修の実施
- 衛生環境改善のための啓発活動
- 日本人大学生のスタディーツアー受け入れ
- 防災ワークショップの開催
- 洪水被災者支援2020年2月



住民参加型で設置した浸水地の適応型トイレ



適応型トイレの普及を約束するプカロンガン市長



2020年2月の大洪水

動画①「生き残る」

<https://www.youtube.com/watch?v=OTIRCBiAE8E>

動画 ②「海面上昇による浸水地のための適応型トイレの作り方」

<https://www.youtube.com/watch?v=awpKfWZ-FwQ>

今後の活動計画（2020年度～）

- モデルトイレの普及
- 啓発活動
- 防災状況の調査、ワーク ショップ
- 水質浄化プロジェクトの検討
- 生計回復プロジェクトの検討

2019年からは、中部ジャワ州とプカロンガン県と協力し、アピアピ村の沿岸部の保全に向けて準備を進めています。アピアピ村の海岸には、露天が並び、地元の人々に愛されるビーチですが海岸浸食が深刻化しています。住民の保全意識も高いことから、今後も行政、住民、NGOで協力して海岸にマングローブや防風林の森を作っていくことになります。

一方、2009年から実施してきたスマラン市のマング

ローブエリアでは、国や開発企業による工業団地や高速道路の開発計画が持ち込まれ、豊かに育ったマングローブの森や住民達が築き上げてきたエコツーリズムが危機に直面しています。沿岸地域の工業化は、回復した生態系の破壊、地盤沈下の加速、さらにコミュニティの生計手段を喪失、漁村文化の崩壊を招きます。FoE Japanは、現地NGOや研究者等と連携し、行政や企業に将来世代のためにも豊かな生態系を残すように働き続けていきます。

2019年度活動

- 植林: プカロンガン県 アピアピ村 25,000 本 (2009 年～ 2019 年度 合計: 375,000 本)
- スマラン市タバック村マングローブのモニタリング
- スマラン市タバック村開発計画に関して行政と交渉



浸食の激しいアピアピ村海岸



枯れた防風林(手前)と頓挫した防波堤(奥)(アピアピ村)



住民が育てる防風林の苗(アピアピ村)



アピアピ村のマングローブの苗木



違法な開発で伐採されたマングローブ (FoE Japan支援地横)